

山内教授との思い出

木村 忍*

理学部2号館(旧理棟)のほの暗い階段を上がり、奥の方へ歩いていく。

「コンコン」と山内教授のドアをノックする。「はい！ どうぞ！」という先生の野太い声。「失礼します。」と言いながら、入室すると、山内先生は、「お～！ 木村か！ どうした？」とやさしく迎えて下さった。以前、某コンサルタントに勤務していた私は、今日も山内先生のお知恵と資料を拝借とばかり、いつものようにノックしたのである。コンサルタントでは、調査課に所属していたので、地すべり調査、水源調査に関わっており、何か疑問に思うことがあれば、神頼みならぬ“山内教授頼み”よろしく訪問することにしてきた。そして、先生の入れて下さったコーヒーをいっしょに飲みながら、相談したのである……。というのが、最近(とはいえ、約5年前)の山内先生との思い出である。

それ以外にも、某コンサルタント在職中には、隠岐営業所所長の村上氏と山内先生とで、隠岐島後のフラクチャーをはかったこともある。そんな野外調査の夜には、隠岐営業所の2階でお酒を飲みながら、村上氏と山内先生の論議に耳を傾けた思い出がある。

また、島根県地学会の会合では、私が会合に出席した時にはいつでも、会場に、山内先生のお顔があり、私の近況を報告したりしたものである。

学生時代には、1・2回生の時には、地質学実習や、層位学などを教えていただいた。

私の場合、卒業論文の担当教官が山内先生であり、松江湾入部の形成過程についての卒業論文を書いた。野外での露頭観察、サンプリングやルートマップの作成をし、山内先生のご指導を仰ぎながら、何とかかんとか卒論発表をし、書き上げることができた。私のフィールドは、サンプリングとはいえ、俗に言う“腐った”石ばかりであり、見分けにくいものも多かった。サンプリングした石を「この石は、〇〇だと思のですが、どうでしょうか？」と言いながら、先生に差し出す。「お～！ これは〇〇だなあ。」とルーペでサンプルを見ながら教えていただいた。また、ルートマップを見てもらえば、「明日は、この沢をつめてみな！ そしたら基盤の構造がはっきりするぞ。オーバーラップするか、アバットか確認しな！」とご教示してくださった。

また、こんなこともあった。

3回生の終わり頃か4回生の始め頃だったとおもうが、山内先生に「製図の手伝いをしてくれないか？」と言われ、デカドライやスクリーンを使い、製図のお手伝いをさせていただいた事もある。それまでは、まともな製図作業をしたこともなく、初めての経験だったが、先生に教えていただきながら、うまく仕上がった時には、何とも言えない達成感を得ることができた。そうして製図したものが、印刷されたものを見せていただいた時には、とてもうれしく思ったものである。

これも4回生の夏頃のこと。

山内先生のご紹介で、当時、島根県工業技術センター資源課の井上多津男さんのところで、お世話になったことがある。井上さんには、露頭での岩石の観察方法や、サンプリング方法、X線による粘土鉱物の判別方法等いろいろとご指導を受け、卒業論文作成の上で、大変に参考となった。

あっ！ 大事な事を忘れていた。10年前には、結婚披露宴にもご出席いただき、お祝いしていただいた。

大学を卒業してから15年になるが、なんとではなく、山内先生は、いつでも島根大学に行けばお会いできるような気でいたので、今回、退官されるとのお知らせをいただいた時には、改めて、年月の経過を実感させられた。

山内先生、ご退官おめでとうございます。

*理学部地質学科平成元年卒業